



Zeroから始める  
肉便器■ミリア

こんなこと・・・

い、今なら許してあげる。

だから、他の人たちを解放して。



もうやめて・・・  
それ以上は



エミリアは言われるがまま、  
必死にチンポを舐めながら  
おっぱいをチンポに擦り付けている



精子を顔にぶちまけ様とも、  
必死に必死に、おっぱいをチンポに  
擦り付けるエミリア。



『そんな顔の間近でマンコ広げるだなんて。あ。

お願い、もう許して。』



「そんなところまで舐めるなんて、ああ・・・  
舌が中に・・・こんな恥ずかしい  
思いをしたのは初めてよ」

ふっ ちゃ  
ふっ ちゃ

ズズズ



『うえっぐ・・・もうダメ・・・。どうにかなりそう  
はあああはうああう』





-数日後-

『ご主人様のチンポをエミリアのおまんこ  
にズプズプ入れてください』



『もうご主人様のチンポ無しではエミリア  
生きて行けない。』



ブ  
42

ブ  
42

ブ  
42

『はあはあはあはあもつと出しててください。ご主人様の精子  
いくらでも飲みます。

これからもずっとエミリアはあなたのものです』

